

10月8日(水)で小説「津軽」の像が建立25周年を迎えたため、建立当時の関係者が出席し、像がある再会公園で「建立25周年祭」を開催しました。

プロローグとして、研究者であり初代の記念館館長でもある柳澤良知氏が像の建立までの経緯を説明。続いて越野タケさんの孫である越野由美子さんが小説「津軽」の碑文を朗読しました。

主催者の加藤教育長が「今日はゆかりのある人がたくさん来てくれてありがたい」とあいさつ。続いて小野町長が「これからもたくさんの方の来場を祈る」と祝辞を述べました。さらに太宰長女の津島園子氏からもお祝いのメッセージが届き、「タケさんはいつまでも、みなさ



献花された ひまわりとカーネーション



彫刻家 田村進氏

んをこの場所で待ち続けてくれていると思います」と読み上げられました。

続いて元青森放送社員の長谷川孝典氏が当時像建立前に製作した番組について説明。彫刻家・田村進氏が記念碑製作までの道のり、おもしろい秘話などを交えながら「太宰作品のすごさをもっと知って欲しい」と出席者に伝えました。その後参加者たちは2人の像に設置された献花台に、2人が好きだったひまわりとカーネーションを捧げました。

セレモニー終了後は昼食会が開かれ、当時タケさんが運動会で用意したメニューを現代風に再現した「タケ」弁当を楽しみました。

わが町の誇り米塚義定氏 逝去

当町福浦地区出身で米国に渡り、柔道、空手などで活躍した米塚義定氏が10月18日(土)永眠しました。

米塚氏は、昭和12年5月当町に生まれ、五所川原高校で柔道を始めました。その後、日本大学へ進み、ニューヨークの柔道協会から招聘を受けて渡米しました。

アメリカでは、陸軍士官学校の教官や大学柔道部の創設、アメリカン柔友会設立などアメリカ柔道界発展に貢献しました。



昨年の柔道大会へ出席した米塚氏

柔道の精神をアメリカに普及させた同氏。オリンピックや世界選手権の監督として活躍し、各団体でも殿堂入りをしています。

最近では、毎年開催される米塚義定杯争奪柔道大会はもちろんだ、平成24年には当町からの柔道部を中心としたスポーツ交流使節団を自身の設立した柔道空手センターに招致して、国際親善試合や合同稽古を行いました。

さらに平成25年には、町の中学生、町長、議員で構成される公式訪問団がクラフトフォード町を訪問し、友好関係がスタートしました。

そんな中、米塚氏は骨髄異形成症候群(MDS)を患い、治療に専念するため、恒例の当町柔道大会を欠席していました。順調な回復をみせていると知らせがありました。病状が急変し帰らぬ人となりました。米塚氏のご冥福をお祈りいたします。

ふるさと
納税

ありがとうございました

〈青森市〉
小田桐
基
様

町では、ふるさと納税を随時お待ちしております。内容は町ホームページにも掲載しています。くわしくは、総務課までお問合せください。

問 役場総務課広報係 内162

